

事務事業名	根本山いきものふれあいの里保全管理事業				担当	産業環境部 環境課（根本山） 根本山自然観察センター		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			電話番号	0285-83-6280		
施策名	4	自然環境の保全と保護			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成4年度～） <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
法令根拠	根本山自然観察センター設置、管理及び使用条例							
予算科目	1.一般会計	4.衛生費	1.保健衛生費	5.根本山自然観察センター費				
事業概要	平成元年に環境庁の「いきものふれあいの里整備事業」として認定を受け、根本山いきものふれあいの里として平成4年に開所した。敷地面積は、約22ha（市有地：約18.3ha、民有地：約3.4ha）あり、自然観察路（2780m）樹木園（1800平方メートル）、トンボの池（1990平方メートル）、タンポポ広場（110平方メートル）、昆虫の林（1744平方メートル）など整備し、環境学習の場として活用している。また、桜の名所として維持するため、てんぐ巣病や徒長枝の剪定を実施する。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 23年度実績 管理作業として下記の業務を実施した。また、生物の生息状況を調査し、次年度のしぜん体験教室の計画に反映させている。 ・全山下草刈り業務 ・草刈等敷地管理業務 ・沿道草刈、桜追肥等業務 ・ヒノキ林等間伐業務 ・枯木伐採業務 ・桜のてんぐす病及び徒長枝剪定業務 24年度計画 平成23年度事業を継続実施する。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称							
	ア	保全管理実施面積	ha	21.7	21.7	21.7	21.7	21.7
	イ	保全管理実施回数	回	27	27	27	26	26
	ウ							
エ								
オ								
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 根本山いきものふれあいの里の自然環境・野外観察施設（観察路、観察舎など）	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称							
	ア	敷地面積	ha	21.7	21.7	21.7	21.7	21.7
	イ							
	ウ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 根本山に生息する生物がより多く生息できるようにすると共に、自然観察やしぜん体験教室ができる環境を維持する。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称							
	ア	植物の種類	種	約700	約700	約700	約700	約700
	イ	野鳥の種類	種	約60	約80	約80	約80	約80
	ウ	蝶・トンボ・バッタの種類	種	約100	約120	約120	約120	約120
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 真岡市の自然環境の保全	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称							
	ア	緑などの自然環境が良いと思っている市民の割合	%	88.7	87.7	92.6	86.2	90.0
	イ							
	ウ							

(2) 総事業費の推移		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
		一般財源	千円	6,411	6,699	11,482	5,401	0
	事業費計(A)	千円	6,411	6,699	11,482	5,401	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	0
		延べ業務時間	時間	2,254	3,111	3,111	3,111	0
		人件費計(B)	千円	9,417	12,618	13,278	13,197	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	15,828	19,317	24,760	18,598	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成元年に環境庁の「いきものふれあいの里整備事業」として認定を受け、平成4年に「根本山いきものふれあいの里」として開所した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	事業開始当初は、スギ・ヒノキなど薄暗い人工林がほぼ全域を占めていた。また、水辺や草地も少ないことから、生息できる生物も限られていた。現在では、雑木林や水辺・草地の整備、人工林の間伐整備などが進み、里山の生物も徐々に増えてきた。その結果、環境学習の活動も徐々に充実してきており、自然環境の保全の啓蒙に役立っている。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	利用者からは根本山の自然環境を維持して欲しいとの要望がある。また、桜の名所でもあり、桜の咲きが良いよう維持管理に努めて欲しいとの要望がある。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 真岡市の自然環境の保全を図ることに結びつく。また、環境教育を推進するに当たり、市民が実際に里山の自然を体験し学べる場所の確保につながっている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 根本山いきものふれあいの里の敷地のほとんどは、市有地である。また、真岡市の自然環境を保全するため。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市が管理すべき土地である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 根本山の環境保全のための業務や桜の名所として維持するため、徒長枝及びてんぐ巢病の剪定、追肥等を実施しており、向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 自然観察や自然教育の場が失われる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 保全管理のための必要最小限の経費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の人件費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市の保全管理事業であり、受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							